

2023 年第 1 回おおぶ文化交流の杜運営協議会

日時： 2023 年 5 月 18 日（木） 14：00～16：00

場所： おおぶ文化交流の杜 会議室

出席者： 委員 5 名／大府市（文化交流課田中課長・永露係長）事務局（JTB コミュニケーションデザイン：以下 JCD 総合館長松井・営業第 2 課長田中・営業第 2 課森、図書館流通センター：以下 TRC 図書館館長村上・図書館顧問上野・図書館部門マネージャー小倉）

事務局 本日はお忙しい中お集まり頂き、ありがとうございます。

これより 2023 年度第 1 回おおぶ文化交流の杜、運営協議会を始めさせていただきます。

司 会 アローブも開館 10 年目を迎えようとしています。新型コロナウイルス感染拡大の影響で厳しい運営が続いていましたが、ようやく以前の状態に戻りつつあると聞いております。本日は文化部門・図書館部門の昨年度下半期報告と、今年度の事業運営計画について議論して頂きたいと思っております。忌憚のないご意見をお願いします。本協議会の規約に則り委員の過半数が出席の為会議成立となります。

～2022 年度下半期文化交流部門より説明～

司 会 ただいま報告のあった事業だけに留まらず委員の皆さまからのご質問やご意見などがあれば伺いたい。

A 委員 SNS での発信回数に関する報告があったが、Facebook での発信が無くなっているように見受けられる。一方でアローブのホームページには Facebook のリンクが残っている。Facebook の活用状況について伺いたい。

J C D 以前は Facebook も運用していたが、効果が薄い為現在は利用していない。ホームページ上のリンクについては速やかに修正を行う。

A 委員 SNS の効果測定はどのような数値を指標として用いているか

J C D フォロワー数を重視している。ツイッターが 1000 人程度だが、最近は電子チケット購入時に必要な LINE の伸びが大きい。また、その他にはホームページのページビュー数も意識している。昨年度は約 24 万 7 千 PV という結果だ。

A 委員 SNS の活用方において、DM 機能を使用する等利用者側から連絡が取れるようにしているのか。

J C D 双方向でのコミュニケーションが SNS の特長ではあるが、いろいろな問題も起きる可能性があるため、現在は情報発信に活用するのみに留めている。

B 委員 コンサートのアンケートコメントに「有料のコンサートに幼児の登場はいかがかと思う」とあるが、詳しい事情を伺いたい

J C D コンサートの関連事業として、幼児対象で段ボールなどの廃材を使って楽器を作るというワークショップを行った。コンサートの途中休憩直後である第二部冒頭で、その子供たちが自分の作った楽器を使って合奏してもらった。概ね好評であったが、純粋にコンサートを楽しみに来られた方からはこのような意見が寄せられる結果となった。今後はチラシ

- 司 会 にわかりやすく表示して、十分内容をご理解いただけるよう配慮したい。
- C 委員 ウクレレ講座について、希望者が多いため受付開始と同時に満席となっているようだが本当か。
- J C D 今年度の申込みについても、すぐに定員に達してしまい多くの方が受講できない結果となった。先生が決まっているため講座の数を増やすことは難しいが、申込受付方法については改善の余地があると思われるので検討したい。
- C 委員 ウクレレ講座のように講座参加者に成果を発表する機会を与え、コンサートにも参加するというのは良い組み立て方だ。一人だと尻込みしてしまうが、仲間と一緒にいたら頑張れるし、楽しく参加できる。
- J C D ありがたいご意見として承る。今後の参考にしたい。
- C 委員 報告書で「サポーターズ」「育み隊」「文化デザイン塾」という名称が見られるが違いは何か。
- J C D 文化交流サポーターズを当館では「おおぶの杜育み隊」と名付けていろいろなボランティア活動を行っていただいている。「文化デザイン塾」は市民育成事業として当館設立前から市民がコミュニケーションや企画について学べる場を提供している。昨年度は至学館大学と連携し「文化デザイン塾 Neo」として1年間のプログラムを実施した。
- C 委員 サポーター活動に関する報告書で、「自分のための参加は宜しくない」という参加者からの意見が記載されていた。「人のため」でなくとも活動を通して自分が豊かになれば、関わった他の人にも良い影響を与えるので、歓迎すべきではないか。どういう思いでこの意見を書かれたか詳細は分からないが、少し疑問に感じた。
- J C D アンケートの自由記入欄に書かれたもの全てをこの報告書には記載している。いろいろな考えをお持ちの方が参加されているので、このようなご意見がでるのは仕方がないが、多くの方は委員のおっしゃる通り自分のためにも、人のためになりたいと思い参加されており、こちらもそういった思いで参加される方を歓迎している。
- 大 府 市 アローブでの企画は市の事業なので当然公益性を求めている。「自分のため」に参加した本人が幸せになれば、それを見た家族、そして関係者へと波及していくと思う。アンケートに書かれた意見は意見として承るとして、「自分のため」に参加されることを否定するものではない。それははっきりと申し上げておく。
- D 委員 業務報告書のうち事業実施内容の報告について、事業の全体像が分かりづらいので目次のページを加えるなど工夫してほしい
承知した。次回から改善したい。

～2022 年度下半期図書館部門より説明～

- 司 会 コロナの影響も小さくなり多くの、またバリエーション豊かな事業が実施され様子が伝わってきた。感想、ご意見などがあれば伺いたい。

- E 委員 「大人のためのおはなし会 女の一生」について、反省事項に『特集を見て』参加の方は少ない」とあるが、講座が満員となって申し込みなかった方もいたのではないかと。二回開催するなどしていろいろな人に知っていただく機会が増えれば満足度の高い講座になると思う。
- B 委員 アンケート結果に「図書カードに印字されている文字がかすれて見えない」とあるが、どのような状況か。
- T R C 長く頻繁にご利用頂き、利用者カード印字面への印字書き込みを繰り返すことでカードが真っ黒になってしまったケースが増えている。字が読めないカードについては新しいものに交換しているが、読める状態のものは引き続き利用いただいている。そのことに対しての不満だと思われる。
- B 委員 よく利用されている方からのご意見だと理解して尊重するとよい。
- T R C 承知した。
- A 委員 図書館の各事業のアンケートで、講座の内容に関するものの他に、駐車場や図書館の雰囲気に関する設問がある。このアンケート結果をどのように活用しているか。
- T R C 図書館に対してのご意見を伺う一つの機会として、各イベントで同様な設問のアンケートを行っている。
- D 委員 私の講座では講座の内容に関するアンケートしか行っていない。図書館の設備や駐車場に関するアンケートは図書館こどもまつりの時など年2、3回にして、講座のアンケートは講座の内容のみとしても問題ないのではないかと。
- 大 府 市 管理する立場で言えば、同じ設問を継続していると、数字に変化があった時に何か起きていくことが分かるので統計上は無意味ではない。ただ講座の内容を重視したアンケートにしたり、クロス集計的な分析ができるようなアンケートにする余地もある。せっかくの機会なのでより正確に、より大事なことを把握できるとよい。
- D 委員 高齢者向けの講座もあれば子供向けの講座もあるので、それぞれ設問を変えても良い。私の講座ではアンケートの設問が少ないが、自由記入欄にたくさん書いてくださる人がいてそれもありがたく感じている。
- T R C アンケートで集めた情報を分析し、有効利用することを念頭に置いて、今後の対応を検討したい。
- J C D アローブ全体の施設や設備の問題は文化・交流部門にも通じることなので、私たちも検討したい

～2023 年度運営計画「文化・交流部門」「図書館部門」より説明及び統括～

- 司 会 アローブは間もなく 10 周年を迎える。親子だけではなく高齢の方にも若い方にも楽しんでいただけるよう工夫して計画されているのが伝わってきた。ご意見ご質問などあれば伺いたい。

- E 委員 2023 年度の数値目標で鑑賞サポート事業の参加率など 2022 年度の実績を下回っているものがあるがどのような理由か。
- J C D 資料の目標には 2019 年度から 2023 年度までの中期計画で定めた目標を記載している。2022 年度は目標を達成したが、今年度はそれを更に上回るよう努力する。
- D 委員 文化交流部門では今まで来てもらえなかった人たちをターゲットとして講座を企画されている様子が伝わってくる。図書館部門では「石」や「POP」等どこからアイデアがでてきたのかと感心するような講座があるが、今年の講座を企画するにあたって意識した課題や目標はあったか。
- T R C 講座を企画するスタッフそれぞれがアンテナを高く張って、面白そうなものを見つけると直接その人に連絡を取って講師を依頼している。新しい講座が増えているのはその積み重ねだ。
- D 委員 これまでは新しい図書館ということで多くの人が来館されているが、コロナ禍が一段落して外へ出る人が増えている。そんな人たちが図書館へ帰ってきてくれるのか不安がある。また、マンネリ化を感じてリピーターが離れ、来館者数や貸出者数が減ってしまわないかも不安。これまで来館されていない人にアピールするイベントを行ったり、イベント全体に図書館として統一された目標があるとよいのではないか。
- T R C ご指摘いただいた点には私たちも課題感を持っている。昨年度から地元の企業や博物館と連携した講座を行ってきたが、軸となるものを考えていくこととしたい。
- A 委員 最近つらいニュースが多いが、地域で文化と芸術が長く続いていることや、人権が尊重されていることはとても大事なことだと思う。本日参加されている委員も皆それぞれ活躍されているので、地域の課題を解決したり、事業を実施しようとするときにはいろいろ協力いただいたらよいと感じた。
また、2024 年度からの中期事業計画は是非共有いただきたい。
- J C D 次回の運営協議会では中期事業計画の案を提示する予定だ。是非ご意見をいただければと考えている。
- T R C 図書館の講座やイベントについて、以前は各担当者がそれぞれ決めて企画、実施してきたが、現在は担当者が集まる会議を定期的に行っている。講座やイベントの方向性もその会議で話し合っていて決めていければよいと考えている。
- 司 会 開館から時が経ち、スタッフも徐々にまとまってきて、その輪が市民の皆様にも広がってきているのを感じる。委員の皆さまからも今後に向けて貴重なご意見をいただき、協力しながらアローブの運営を行っていききたい。
- 事務局 次回今年度第 2 回運営協議会の開催は 2023 年 11 月 22 日（水）の予定。
お忙しいところご出席いただきありがとうございます。
皆様方のご意見をもとに市民や地域団体の皆様とコミュニケーションを大切にしながら今後も皆様に満足して頂けるように、スタッフ一同努力してきたいと思っておりますのでご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いします。
- 司 会 以上で協議事項はすべて終了した。閉会。